2022　World Rowing Cup Ⅲ　大会報告

2022.7.10

１．大会概要

大 会 名　2022 World Rowing Cup Ⅲ

開催場所　Rotsee（ロート湖）, Lucerne , Switzerland

大会期間　2022 年 7 月 8 日（金）～10 日（日）

参加人数

LM1x	軽量級男子シングルスカル	15 クルー
M1x	男子シングルスカル	26 クルー
LW2 x	軽量級女子ダブルスカル	16 クルー
M2-	男子ペア	21 クルー
W1x	女子シングルスカル	17 クルー
W2x	女子ダブルスカル	15 クルー
M4-	男子フォア	11 クルー

2. 参加者名・成績・レース概要

■LM1x　安井 晴哉　選手（トヨタ紡織）

予　　選	5 着/5 ｸﾙｰ	7 分 37 秒 54
敗者復活	6 着/6 ｸﾙｰ	7 分 26 秒 20
ﾌｧｲﾅﾙ C	3 着/3 ｸﾙｰ	7 分 18 秒 14

（総合 15 位/15 ｸﾙｰ）

WCⅡ後からコンスタントのスピードをキープするために、漕ぎ 1 本 1 本の質を高めることにフォーカスし取り組んできた。レースを重ねるごとに課題を改善することができたが、力及ばず 15 位となった。今シーズンが初めての代表活動となったが、WCⅡ・WCⅢの 2 戦で世界との大きな差を確認できた。この経験を無駄にすることなく、引き続き課題改善に取り組み、ステップアップしていきたい。

■W1x　米川 志保　選手（トヨタ自動車）

予　　選　　6 着/6 ｸﾙｰ　7 分 53 秒 99

（途中棄権）

本大会にはシングルスカルで挑むことになったが、コンディション不良により途中棄権となった。

■M1x　山尾 圭太　選手（トヨタ紡織）

予　　選　4 着/4 ｸﾙｰ　7 分 05 秒 97
敗者復活　6 着/6 ｸﾙｰ　7 分 13 秒 93
ﾌｧｲﾅﾙ D　6 着/6 ｸﾙｰ　7 分 10 秒 67
（総合 24 位/26 ｸﾙｰ）

予選では、WC II 後から取り組んできた「リラックス」「キャッチでの力みすぎない繋がり」「長いレッグドライブ」を表現することができ、ベストタイムを記録した。しかし、その後は 1 日 2 本、連日のレースを漕ぎきる力が不足しており、現時点でのベストを尽くしたが力及ばず 24 位という結果に終わった。欧州遠征 50 日間を通して、「できるようになりたい」と感じていたことができるようになったりと、漕ぎの面での収穫が多かった。引き続き、質の高いトレーニングにチャレンジし成長していきたい。

■LW2x　JPN１　S廣内 映美　選手(明治安田生命)　B冨田 千愛　選手(東京大学RSL)

予　　選	4着/5ｸﾙｰ	7分09秒36
敗者復活	4着/5ｸﾙｰ	7分02秒50
ﾌｧｲﾅﾙC	4着/4ｸﾙｰ	7分23秒42
		(総合16位/16ｸﾙｰ)

WCⅡ後から、「力で艇を動かすこと」から「加速感を出すこと」にイメージをシフトし、ブレードと艇にフォーカスした取り組みを行ってきた。そのイメージを 2 人で共有することができた結果、敗者復活ではベストタイムを記録することができ、一つ自信に繋がった。しかし、最後の最後に、勝負所で勝ちきれないレースが多かったことは、今後の改善点として残った。引き続き、質の高いトレーニングを継続し、勝負所で勝ち切る力をつけていきたい。

■LW2x　JPN2　S大西 花歩　選手(デンソー)　B木野田 沙帆子　選手(明治安田生命)

予　　選	6着/6ｸﾙｰ	7分20秒11
敗者復活	4着/5ｸﾙｰ	7分08秒87
ﾌｧｲﾅﾙC	1着/4ｸﾙｰ	7分12秒65
		(総合13位/16ｸﾙｰ)

予選では、他艇を意識したり、他艇からの引き波に翻弄されたりと、自分たちの艇に集中できず思うような漕ぎができなかった。敗者復活では、「自分たちの艇に集中すること」を目的として「加速」を 2 人で共有したことで艇がスピードに乗り始めた。ここでの成功体験が自信へと繋がり、決勝には良いイメージで挑むことができた。結果、スタートからトップに立ち、コンスタントで他艇を引き離し、ラストでその差をさらに広げ勝ち切るという理想のレースを実践することができた。この経験を活かし、今後も質の高いトレーニングを積み上げ、世界と戦うレベルまでステップアップしていきたい。

■M2-　JPN1　S 荒川 龍太　選手（NTT 東日本）　B 大塚 圭宏　選手（NTT 東日本）

予　　選	2 着/6 ｸﾙｰ	6 分 29 秒 55
敗者復活	1 着/5 ｸﾙｰ	6 分 32 秒 86
ｾﾐﾌｧｲﾅﾙ A/B	5 着/6 ｸﾙｰ	6 分 32 秒 86
ﾌｧｲﾅﾙ B	3 着/6 ｸﾙｰ	6 分 30 秒 42

（総合 9 位/21 ｸﾙｰ）

WCⅡ後から、「バランス」「フィニッシュの押しきり」の課題に 2 人で取り組み挑んだが、予選・敗者復活では思うような漕ぎを実践することできなかった。しかし、準決勝では世界選手権でメダルを獲るようなクルーにスタートから付いていき、大きなチャレンジをすることができた。徐々に調子を上げていき、決勝では今大会では一番いいスピードを出すことができたが、まだまだ多くの課題が残るレースとなった。世界のトップ層と戦うレベルまでたどり着けるよう、引き続き 2 人で課題に取り組みレベルアップしていきたい。

■M2-　JPN 2　S 志賀 巧　選手（東レ滋賀）　B 福田 将　選手（東レ滋賀）

予　　選	4 着/5 ｸﾙｰ	6 分 51 秒 61
敗者復活	4 着/4 ｸﾙｰ	6 分 48 秒 92
ﾌｧｲﾅﾙ D	2 着/3 ｸﾙｰ	6 分 43 秒 67

（総合 20 位/21 ｸﾙｰ）

WCⅡ後から、「レッグドライブの長さ」「体幹部の強さ」を課題として、質の高いトレーニングに継続的して取り組み、本大会では力強い漕ぎで現時点でのベストを尽くすことができた。世界と戦ううえでフィジカル面に課題は残るが、この 2 か月で著しい成長を見せたクルーである。引き続き、質の高いトレーニングを継続し、着実にステップアップしていきたい。

■W2x　JPN2　S 西原 佳　選手（プリントパック）　B 榊原 春奈　選手（トヨタ自動車）

予　　選	5 着/5 ｸﾙｰ	7 分 20 秒 57
敗者復活	6 着/6 ｸﾙｰ	7 分 11 秒 78
ﾌｧｲﾅﾙ C	3 着/3 ｸﾙｰ	7 分 11 秒 21
		（総合 15 位/15 ｸﾙｰ）

WCⅡ後から、スキル面では「横の動き」を意識し、水中の長さの改善に取り組んできた。予選では、スキル面の課題は表現することができたが、世界のトップレベルのクルーに積極的に挑み、後半失速してしまった。それらを改善すべく敗者復活・決勝では、1000m までは我慢強く艇を伸ばし、1000m から最後にかけて勝負を仕掛けるというレース展開にチャレンジした。結果として、世界と肩を並べて戦うことはできなかったが、このイメージでの確かな手応えを感じることができた。今後は、このレース戦略で戦うために、質の高いトレーニングを継続しフィジカル面の強化に繋げていきたい。

■M4-　S 新井 勇大　選手（明治安田生命）　3 高野 勇太　選手（NTT 東日本）
　　2 西 知希　選手（NTT 東日本）　　B 林 靖晴　選手（NTT 東日本）

予　　選	6 着/6 ｸﾙｰ	6 分 09 秒 11
敗者復活	5 着/5 ｸﾙｰ	6 分 11 秒 66
ﾌｧｲﾅﾙ B	5 着/5 ｸﾙｰ	6 分 04 秒 28
		（総合位 11/11 ｸﾙｰ）

WCⅡを経験したことで、クルーのイメージ統一が進み、シートチェンジを行ったり、4 人の漕ぎのイメージを共有するミーティングを重ねたりと前向きに取り組むことができた。予選では前半から他艇に引き離され「攻め」が足りないことが課題としてあがった。敗者復活では前半から積極的に挑んだが、攻めすぎてしまい後半大きく失速してしまった。2 レースの結果を踏まえ、決勝では前半で出遅れることなく、かつ中盤も我慢強く粘り、終始攻め続けたレースとなった。今後はレベルアップすべき点は多いが、オープンカテゴリーでのロングボートでのチャレンジは得るものが多かった。

以上